

歯科保健指導（含訪問歯科保健指導）

講 師	生 田 佳 代 中 尾 亜 希 子	実施時期 単 位 数	第 2 学年前・後期 2 単位 （80 時間）	実務経験	○
一般目標（GIO）	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。				
授 業 概 要	歯科保健指導は人々の生活習慣や態度を望ましい歯科保健行動に変容させるために専門的立場から支援することである。第2学年では、様々な対象者に対応できるよう専門知識にとらわれず情報収集を心がけ基本から応用力を身につけていく。				
学 習 方 法	講義、デモンストレーション、グループディスカッション、実技試験				
成績評価の方法	記述試験（定期試験）をおおよそ80%とし、残り20%は実技試験、課題、レポート、授業態度、出席状況等を総合して評価する。				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会（監） 最新「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科予防処置論、口腔衛生学と重複する内容もあるため、他科目の教科書や資料も参考にすること。 本授業で配付した資料は必ず復習し、次回の授業の準備として活用すること。 また、普段から幅広い知識や情報の収集を心掛け、同時にコミュニケーション能力、接遇作法、話法等も身につけて欲しい。				
参 考 書	①松田裕子（編集）「オーラルヘルスケア事典」-お口の健康を守るために- 学建書院 ②眞木吉信他（監著）「歯科衛生士教育サブテキスト 臨地実習HAND BOOK」 クインテッセンス出版 ③全国歯科衛生士教育協議会（編）「よくわかる 歯科衛生過程」 医歯薬出版 ④尾崎哲則、埴岡隆（編著）「歯科衛生士のための禁煙支援ガイドブック」 医歯薬出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標（SB0s）
1 5 4	歯科衛生過程の進め方	①歯科衛生過程のマネジメントサイクルを理解し、全体像を説明できる。 ②歯科衛生過程における構成要素の目的を説明できる。 ③歯科衛生過程における書面化（業務記録）の意義を説明できる。
5	地域歯科保健活動 臨床・臨地実習の効果を高めるために	①地域歯科保健活動のフィールドを説明できる。 ②健康教育の計画立案ができる。 ③健康教育の内容を説明できる。 ④地域歯科保健活動の工夫と留意点を説明できる。
6 5 9	生活習慣の指導 ストレスマネジメント	①口腔健康管理を行うための歯科衛生介入計画を立案できる。 ②非感染性疾患（NCDs）の症例に合わせた歯科保健指導ができる。 ③禁煙指導・支援ができる。 ④ストレスマネジメントの指導ができる。
9 5 16	対象別特徴の把握	①ライフステージ別の対象者の一般的特徴と口腔の特徴及び歯科保健行動を説明できる。
17 18	配慮を要する者への歯科衛生介入	①要介護高齢者の特徴を説明できる。 ②障害児者の特徴を説明できる。
19 20	対象別指導（実技含む）	①各ライフステージ別の口腔衛生指導ができる。
21	口腔衛生指導の要点	①口腔の機能的な問題を把握できる。 ②口腔内の観察項目とポイントを列挙できる。 ③画像から得られる情報を説明できる。
22 23	配慮を要する者への歯科衛生介入	①大規模災害被災者の特徴を説明できる。
24 5 32	対象別指導（食生活と生活習慣）	①健康を維持するための栄養情報を説明できる。 ②食品と齲蝕の関連性を説明できる。 ③齲蝕予防のための食品摂取方法を説明できる。 ④食生活・食習慣の背景を説明できる。 ⑤食品を歯科疾患の関連性を説明できる。 ⑥咀嚼の働きを説明できる。
33 5 36	指導と歯科衛生過程	①情報収集で得られる情報を説明できる。 ②対象者の全体的な健康状態について把握できる。 ③対象者の生活に関する情報を把握できる。 ④口腔内の観察項目とポイントを列挙できる。 ⑤画像から得られる情報を説明できる。
37 5 40	ライフステージ別症例検討	①ライフステージ別の症例について討議できる。